

## <case2> 愛妻家のBさん

Bさんと私たちは、当施設開所後、間もない平成29年5月に出会い(自宅から入所され)ました。

Bさんは慣れない施設での集団生活のため、居室に閉じこもることが頻繁でした。

右側に麻痺があり、言葉もうまく発することが出来ず、こんな身体で他者に会いたくもないし、部屋から出たくもないという気持ちでおられました。

家族とも離れて暮らすことになり…居室でテレビを見て過ごすことが日課となっていました。

Bさんには、施設入所をネガティブに捉える人生ではなく、幸せを感じる人生を送って欲しい！

『Bさんの幸せ作り計画書』作成に向けたカンファレンスを開催しました。

この『幸せ作り計画書』作成のためのカンファレンスには、介護職、看護職、管理栄養士といった多職種が参加し、なかでも、介護職は直接、Bさんに関わるフロアスタッフだけでなく、他のフロアスタッフも参加します。

日頃のBさんを知っているから気付くこともあれば、Bさんをあまりよく知らないから気付くこともあり、いかなる可能性も排除しないこと、否、幸せの可能性を拡大させようという思いから、通称『拡大カンファレンス』と呼んでいます。

参加スタッフ全員でBさんの生活史をしっかりと、しっかりと読み解きました。

1回目の拡大カンファレンスでは答えが見つからず、次までの課題(情報収集)を持って一旦、解散しました。

2回目の拡大カンファレンス。

担当する介護職から『Bさんの幸せ作り』についてある提案がされました。

Bさんは、中国(旧満州)で生まれ、戦争の影響を受けながら幼少期を過ごしました。

その後、郵便局にお勤めで、結婚後は、2人の子宝に恵まれ、家族のために必死に働いてこられました。

そんなBさんが毎年欠かさずやってこられたこと…それは「結婚記念日に妻へプレゼントを贈る」ことでした。仕事中に脳出血で倒れ休職となっても続けてこられました。

そうしたBさんからの愛を感じ続けてきた妻は、定年後のBさんも献身的に支えてきました。

しかしながら、夫婦で暮らす生活は限界となり、当施設に入所という決断をされました。

一家の大黒柱から、妻に迷惑をかける存在に…その苦しみがBさんを変えてしまい、居室に閉じこもり、やがては自分自身の殻に閉じこもり、人に会うことを拒絶しました。

「結婚記念日に妻へプレゼントを贈る」ことも叶わぬことと諦めていました。

だからこそ…

「結婚記念日に妻と外食してサプライズでプレゼントを贈ろう！」

これが担当する介護職からのプレゼンテーションでした。

そうと決まれば、Bさんに話す前に実現に向けた作戦会議を。

皆でシェアし、役割分担もしました。

その作戦の核が、毎日、施設で行っている『遊びリテーション』です。Bさんに再び社会(人)と繋がって貰おう、そのために「生活空間を拡大して貰おう」「他者を意識し思いやる気持ち(心の耐久力)の回復を図ろう」こうした目的をもって、専門技法である「遊びリテーション」を展開していきました。

最初は参加そのものを拒否されていましたが、あの手この手の方法で誘い出し、参加いただいたからには目一杯輝いて貰いました。

やがて、他者との人間関係も整い始め、再び、社会の中に戻って来られるようになりました。このころから、表情も変わり、朝、他の入所者と会うとハイタッチすることも日常の光景となりました。

食事のとき、むせ込みやこぼれることを気にして、一人で窓側を向いて食べていた B さんも、食事が終わったらすぐ居室に帰っていた B さんも、今はもういなく、関係のできた皆さんと一緒に食べ、食後もフロアで過ごされるようになりました。

こうした B さんの変化に奥さんも、介護の対象としてではなく、「夫・B さん」を思い出し始められました。

「今だ！」

担当する介護職から B さんへ「幸せ作り計画書」の提案をしました。これまで仕掛けてきた種明かしも添えて。

更に、B さんの生活が変わりました。

進んで車椅子からイスへ座り替わることや、食事が楽しいと一番に席に着く姿、遊びリテーションへの積極的な参加、他者を思いやった本来の B さんの行動、…目標に向けて B さんが輝き始めました！

ただし、課題が…プレゼントは何を、どこに、誰と買いに行くのか、そして、妻に分からないように支払いをするにはどうするのか…。

実は、ここも作戦を立てていました。

近くに住む長女さんにこの目標をお伝えし協力の確約を得ていました。

こうして、奥さんには「結婚記念日に外食をしましょう」とだけ伝えて X デイを迎えました。

勿論！その日は大成功！

感動&感謝&愛に満ち溢れた時間でした！

更に！

人と会うことをあんなに避けていた B さんが、障害を負う前まで勤めていた郵便局に寄りたいと。

それはかつての自分(障害を負う前の B さん)を知っている人に会うかもしれないということ。

でも！

そこには、私たちが出会ったころの B さんではなく、今の自分にプライドを持った B さんがいらっしゃいました！

B さんから、私たちが理念とする『新しい価値観の創造』とは何かを改めて教えていただきました！